

！市民のわ

フレッシュさん

このコーナーでは、まちのフレッシュさんをリレー方式で紹介します。場合さんは前回の仲島さんの紹介です。



ばあい みなこ
場合 美奈子さん
(23歳・青葉台町)

昨年4月から放射線技師として恵寿総合病院に勤務。レントゲンやCT、MRIなど最新の医療機器に囲まれての毎日を送る。「レントゲン写真1枚とっても撮る人によって見やすいものと見にくいものがあるんです。少しでも見やすいものを撮れるようになりたいです。今は一般的な仕事ばかりですが、もっと専門的な仕事にも挑戦したいですね」と意欲的だ。

◆休日のご過ごし方は？

「右盤浴」に凝っています。最近、車の免許を取ったばかりなのでドライブがてらに出かけています。たっぷり汗をかくとやせられますしね(笑)

◆これからの七尾市にひと言。

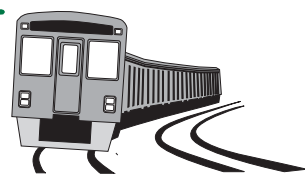
若者主催の行事があればいいですね。私もぜひ参加してみたいと思います。

出身地 青森県平川市



このコーナーでは、県外から市内へ転入された方の声を紹介します。

思えば遠くへ来たもんだ



ひらの じゅんこ
平野 潤子さん

(昭和31年生まれ・三引町)

父親の死をきっかけに、当時の中島町にいた友人からの誘いで平成2年に能登へ。翌年には結婚。「初めは不安でしたが、地元の人を私を家族のように温かく迎えてくれました」と当時を振り返る。

実家は学園都市・弘前市の近く。東京で働いていたこともあり都会的な生活を送ってきた。「田舎は人が人を癒してくれる。20年経って考えてみると、私はここに来るべき人だったのかな」と今の暮らしに満足した様子だ。

現在は長期滞在型下宿『浦上荘』を営み、「都会で生活する人がいつでも田舎暮らしを体験できるように受け皿になりたい。田舎を気に入って住みついてもらえればうれしいですね」と自分の経験を生かした生活に挑戦している。

◆三引町のお気に入りとは？

カワセミやキジなど見たことのない鳥たちが周りの自然にいたり。子どもが友達で市街地から遊びに来たとき、「こんなところに私も住みたいなあ」と言われ、やっぱりここはいいところなんだと改めて感じました。

市長コラム

子育ては七尾で



七尾市長
武元文平

6月市議会で「中能登町に住んで七尾市に働くのがよい」という声があり、「中能登町は中学卒業まで医療費がタダだが、七尾市はお金があるから」という。「七尾市の子ども医療費を中能登町と同様にできないか」と質問があり、私は「子ども医療費は確かに中能登町の方が七尾市より負担が少ない。しかし、子育て支援費全体を見てもらえば、比較にならないくらい七尾市の子育て支援は充実している。延長保育や休日保育、病児保育、一時預かりなど、中能登町にはない保育サービスなどをたくさん実施している」と答えた。

七尾市の子ども一人当たりの保育事業費は約9万5千円。これは全国でもトップクラスのサービスだ。県内で次に高いのは羽咋市で約6万2千円。中能登町は約1万5千円という状況。放課後児童クラブの利用補助も中能登町にはない。子ども医療費の比較だけを取り上げて七尾市のサービスが良くないというような評価は適当ではない。いかに財政が厳しくとも、将来の七尾を担う子どもたちを育てることにはできるだけの支援をしていきたい。子育て中の保護者が安心して働き、子育てができるようにと力を入れてきたところだ。延長保育や休日保育をしている七尾市内の保育園には、中能登町からも多くの利用者が来ている。

転勤などで七尾市へ転入された人からは「七尾市の保育サービスは素晴らしい。こんなところで子育てをしたい」という声も実際にあるのだが、これは行政のPRが足りないということなのだ、反省もしている。

働く女性の割合が特に高い七尾市では、子どもを安心して夜間や休日も預けられる施設や保育サービスの充実が求められており、医療費の助成より優先される要望だ。働くところが少ない中で、少子化や人口減少にストップをかけるために、働く人たちが安心して子育てできるための行政サービスは非常に大事な仕事だ。同時に3世代同居をもっと進めていきたい。地域ぐるみで子育てをする市民協働のまち・七尾にしていきたい。皆様のご理解とご協力をよろしくお願い致します。

『大人も子どもも手をつなぎ しあわせの和を広げよう』

(市民のねがい「七尾市民憲章」より)

市長談話室

市長と気軽に お話しませんか？

日頃感じているまちづくりや生活環境など市政への思いやアイデアをお聞かせください。(個人・グループどちらでも可。1組30分以内)

●7月26日(月) 15:00～17:00
会場：田鶴浜市民センター 1階会議室

●8月10日(火) 15:00～17:00
会場：七尾市役所 1階102会議室

※申し込みは1週間前まで

※公務により中止になる場合あり

問・申 市民男女協働課 ☎53-8633



このコーナーでは、市内のクラブ活動やサークル活動などを紹介します。



七尾城山を愛する会

(会長 武井忠仁さん)



会員への発送作業に集まったメンバーの方々

「歴史ある七尾城を知り、ふるさとを再発見してほしい」と武井会長は城山への愛着を語る。平成元年、当時の公民館長が「城山を七尾市全体の宝にしたい」と言ったことがきっかけで会が発足。法人会員に加え、市内外の個人会員は現在100人を超える。城山に親しむためのウォーキング、県外の山城を巡る研修会など楽しみは多い。七尾城の歴史を知りたい、城山に登るのが好き、畠山家の歴史が好きなど、楽しみ方はさまざまだ。

日本百名城に選定された七尾城をもっとPRしようと、会員の国分秀二さんが中心となって、ガイドブック「七尾城山を歩きましょう」を発行。A6版、64ページというコンパクトなサイズにまとめられている。七尾城の歴史をはじめ、城山へ登るための古道、四季の表情などを写真と文で詳しく紹介している。会員には無償配布され、会員以外は市役所や図書館、金融機関などで閲覧できる。

七尾城や畠山家の歴史に興味がある方は、ぜひ入会を！(年会費1,000円)

問 矢田郷公民館 ☎52-5240